

**保健活動のために  
堺市計画・実施・評価シート活用  
と活動の実際  
— 地区診断への提案 —**

**堺市美原保健センター**

**西本 夕紀**

# 堺市の概況



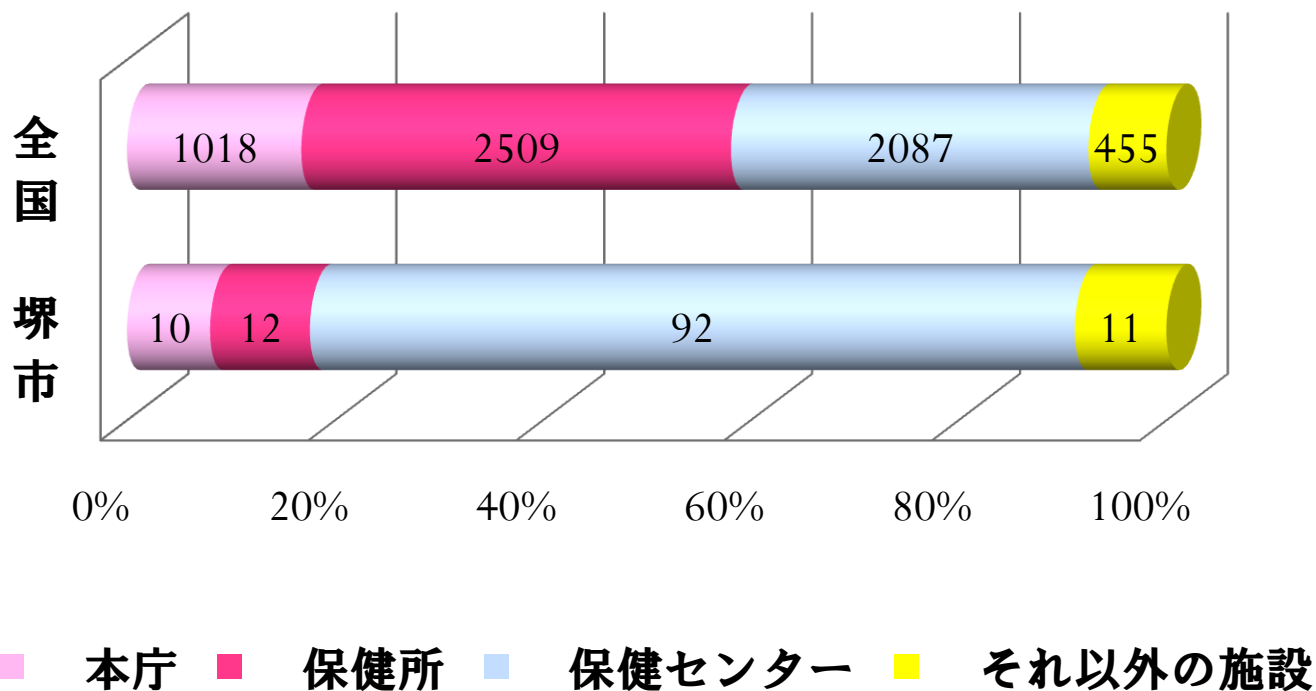
保健師数125人

全市 人口 838,455人  
面積 149.99km<sup>2</sup>

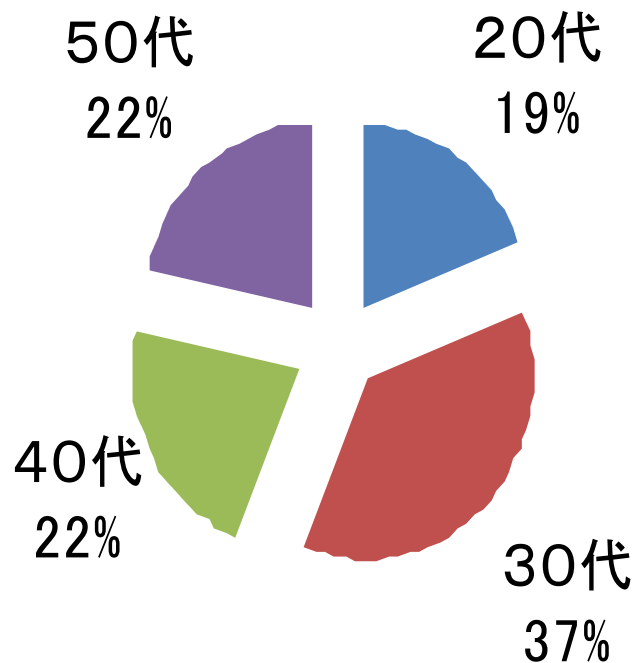
堺区	<u>147,316人</u>	西区	<u>133,706人</u>
	23.69km <sup>2</sup>		28.62km <sup>2</sup>
南区	<u>154,978人</u>	中区	<u>122,256人</u>
	40.44km <sup>2</sup>		17.64km <sup>2</sup>
北区	<u>155,563人</u>	東区	<u>85,384人</u>
	15.58km <sup>2</sup>		10.48km <sup>2</sup>
美原区	<u>39,252人</u>		
	13.24km <sup>2</sup>		

# 堺市保健師の配置状況

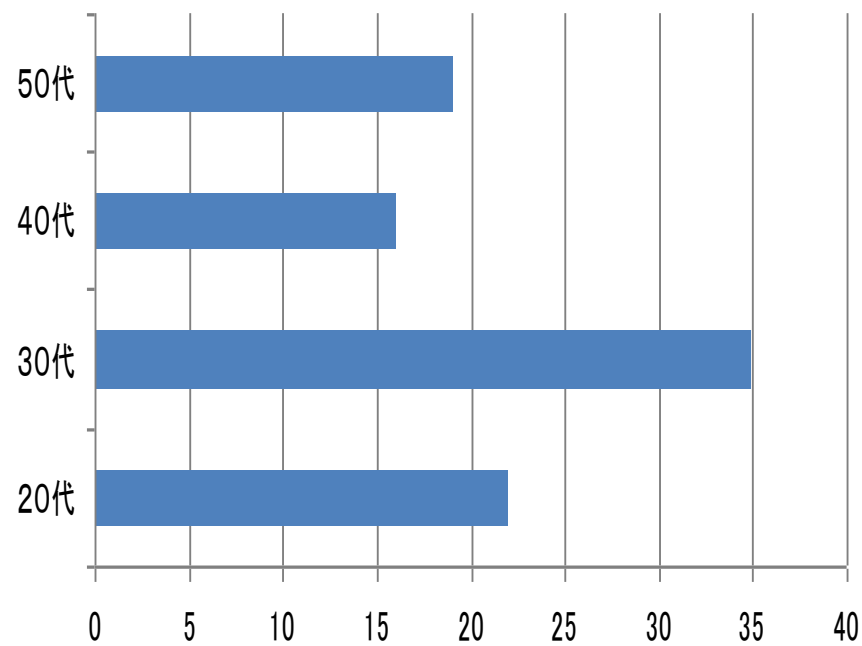
## 常勤保健師割合



# 保健師 年代別



# 保健センター



中堅者で60%占める。多い30代

# 保健活動体制

- **業務担当制と地区担当制の重層型**
- **受け持ち人口平均は12000人**
- **併用性のメリット・デメリットは全国同様**

メリット	デメリット
地区をみて実態に沿った保健活動が可能	責任の不明確さゆえの住民への不利益感
総合的な視点がある	地域を見て地区活動を見通す視点の弱体化
(業務) 専門性の獲得/発揮が可能	業務量増加による地区活動へのしわ寄せ

# 堺市保健師活動【計画・実施・評価シート】による取り組み

- ツールとして平成14年度から地域保健活動にシートを活用。
- 保健師ならではの多様な工夫による質的情報を取り入れ地域診断を実施し、地域を総体的に把握し企画立案ができるようにシートを使用してきた。
- 業務としてはもちろん地区シートとしても効果的に使用できるよう工夫。

# 地域診断 計画・実施・評価 シート活用の実際

---





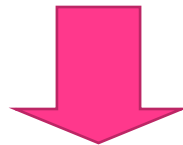
# 乳がん対策の取り組みのきっかけ

## 乳がん体験者の体験談・相談から

- 入院中は若い女性が多かった
- 本人と家族の負担が大きい



- 早期発見の必要性を実感



- 乳がん検診や自己検診の大切さを伝えたい

# 乳がん予防啓発の取り組み

～事業が開始された背景・地域のニーズ～

- 20人に1人が乳がんにかかる
- 毎年約1万人の方が亡くなっている
- 30～50歳代は死亡率、罹患率第1位
- 乳がん検診の受診率が低い

＜平成18年度堺市乳がん検診の実態＞

検診受診率：9.2% がん発見数52人 早期がん19人

精密検査受診率75%

要精密検査：要精密検査受診者の5%が乳がんと判定  
(疑いも含む)

- 自己検診を実施している人

(堺保健センター管内乳がん検診受診者)

: 30代 32.6% 40代 40.9% 50代 51.6%